

# 特別講師の皆様へ

特別講師は、学校から求められる内容に応じ、理科に関する発展的な内容の授業（先端科学技術や研究開発成果等を生かし、学習事項と社会活動とのつながりを実感させることができる内容で、演示実験など観察・実験活動等を含む。）を教員と連携して実施します。特別講師となられる皆さんは、その専門的な知識を生かして大学、研究機関、企業などで仕事をしてきており、児童はそのような方々に直接話や実験をしていただくことによって、理科の学習内容だけでなく、理科が社会生活に活用されており、理科（技術）を仕事として歩んでいる人がいることも学ぶことができます。

「特別講師」による特別授業は専門家による単なる「講義」ではなく、あくまでも小学校の理科の授業の一つです。

講師による授業を小学校の理科の学習と関連付ける。

講師の専門性を生かす。

この2つの課題を解決できるようお願いします。その他、下記の留意点にご配慮いただければ幸いです。

## 1. 小学校との連絡

特別授業を実施するに当たり、当該小学校と連絡を取り、学校の雰囲気や児童の印象を事前に理解しておいてください。教務主任だけでなく、担任との打ち合わせも大事です。特に当該小学校の5、6年生が学習している理科の内容は、教科書等でご一読ください。

## 2. 時間配分

小学校の授業時間は主に45分授業です。児童もその時間に慣れていません。時間配分にご注意ください

## 3. 体験型の授業

「百の説明より一の実験」。先生方が日頃実験をできないような授業を期待しています。児童の興味・関心を高めることができるよう、映像や質問、実験、観察などを適宜組み込んでください。

## 4. チームでつくる授業のシナリオ

特別授業は、講師の考え方と学校の要望がマッチングしていることが必要です。講師の考えを生かすためには、講師が授業プランや配付資料等を用意するなど、お互いに学習することにより、小学校の授業とのギャップを埋め、小学生が理解できるような授業になります。授業では、実験全般の補助員が必要になることがあります。特別講師と学校がチームで作るシナリオが望まれます。

特別授業の一般的な形態として、小学校の理科担当教員から、これまでの学習事項を振り返り、それらの発展的な学習として特別授業が展開される旨を説明し、講師を紹介して特別授業を始めることがよく見られます。

## 5. 楽しみながら学ぶ科学、非日常の体験

特別講師になられる皆さんは、子どもたちの「不思議」に感動を与える専門性を持ち、サイエンスや産業界の持つ教材やノウハウを使用した実験ができます。それは、教科書どおりでない説明を加えることで授業内容の印象づけができるとともに、教科書に記載のない定理や法則についても授業の流れの中で無理なく説明できます。子どもたちにも先生方にも新鮮な刺激となり、学校だけで学べないこともあり社会的な視野の広がりも期待されています。

## 6. 小学校の配置要望がなければ配置になりません。

事務局では、特別講師の応募票をもとに「特別講師人材リスト」を作成し、各小学校に配布します。そのリストの中から小学校が選んだ特別講師と日程を調整して配置を決定します。そのため、小学校から要望が上がらなければ配置はありません。応募票には、小学校が分かりやすい表現で記載されるようお願いいたします。

郵便番号 069-0834 江別市文京台東町4番地

北海道立教育研究所 附属理科教育センター SCOT事務局

TEL 011-386-1966

FAX 011-386-1977

ホームページ <http://www.ricen.hokkaido-c.ed.jp>

e-mail nakamura.scot@hokkaido-c.ed.jp